

第15回地域医療貢献奨励賞 受賞者(2021年度)

<敬称略>

今 明秀	青森県 八戸市立市民病院・院長
<p>昭和58年自治医科大学卒。青森県内で複数の病院・診療所においてへき地医療に携わった後、埼玉県川口市立医療センター救命救急センターを経て平成16年に八戸市立市民病院救命救急センター所長に着任。平成29年には同院院長に就任、累積欠損金を解消するなど経営面においても優れた手腕を発揮する一方、フライトドクターとして月に数回ドクターヘリに搭乗するなど医療現場の第一線でも活躍しており、長きにわたり救急医療の発展に尽力、地域医療を牽引してきた功績は誠に顕著である。</p>	
室岡 久爾夫	山形県 町立真室川病院・院長
<p>昭和58年山形大学医学部卒。平成元年に町立真室川病院整形外科診療部長として着任、平成4年には同病院の院長に就任し、現在まで30年の長きにわたり中山間地に集落が点在する特別豪雪地帯の同町において、昼夜を問わず救急患者の診療を行い、地域住民の命と健康を守り続けてきた。これまでの取り組みは、高齢者の尊厳を保持し、自立生活に対する支援によって住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう取り組んできた地域包括ケアシステム構築の歴史そのものであり、これに果たしてきた貢献は極めて大きい。</p>	
植草 義史	茨城県 北茨城市民病院・院長
<p>昭和55年自治医科大学卒。北茨城市立総合病院、城里町国保七会診療所での勤務後、自治医科大学大宮医療センター（現 自治医科大学さいたま医療センター）を経て平成3年に茨城県立中央病院に着任。平成24年に北茨城市立総合病院（現 北茨城市民病院）の院長に着任後は、病院機能の向上と活性化を図るとともに、へき地医療拠点病院として県のへき地医療に貢献。長きにわたり地域医療の充実に向け果たしてきた功績は誠に顕著である。</p>	

中川 潤一	神奈川県 相模原赤十字病院・副院長
昭和57年自治医科大学卒。義務年限終了後、一貫して神奈川県の北西端、いわゆる医療過疎地域の旧津久井郡の基幹病院である津久井赤十字病院（現 相模原赤十字病院）で内科医・総合医として救急医療に従事し、地域住民に信頼と安心を与え、長きにわたり地域医療を守ってきた功績は大変大きい。	
宮崎 光一	三重県 町立南伊勢病院・名誉院長
昭和55年三重大学医学部卒。県立志摩病院勤務などを経て平成19年に町立南伊勢病院長に着任。南海トラフを震源とする大津波のリスクを粘り強く行政や町議会等に訴え、同院の高台移転を果たすなど院長着任以来、地域医療に果たした貢献は数知れず、令和3年には同院の名誉院長に就任。長年にわたり地域医療を守ってきたその功績は極めて大きい。	
坂本 不出夫	熊本県 国保水俣市立総合医療センター・水俣市病院事業管理者
昭和50年東京慈恵会医科大学卒。昭和54年より国保水俣市立病院（現 国保水俣市立総合医療センター）に勤務し、40年以上にわたり一貫して水俣芦北医療圏及び鹿児島県の北薩地域の地域医療の第一線で活躍。地域の人口減少が続く中、24時間365日断らない救急医療、2次医療圏や県境を越えた医療連携に取り組み、将来にわたり存続可能な病院事業及び地域医療体制の構築に向けて尽力してきた功績は極めて大きい。	